

ディスクドッチ東京シリーズ2026 第1戦



大会報告書

2026年7月20日
一般社団法人日本ドッチビー協会



1. 大会概要

名 称 : ディスクドッジ東京シリーズ2026 第1戦
日 時 : 2026年6月28日(日曜日) 12:00～17:00
場 所 : ミズノフットサルプラザ
味の素スタジアム
主 催 : 一般社団法人日本ドッジビー協会
(DBJA)
協 賛 : 文化シャッター株式会社、
株式会社ラングスジャパン、
株式会社ミカサ



2. 実施概要

- ・5チームリーグ×2 の総当たり戦。各リーグ1位のチームで決勝戦を実施。
勝ち点：勝利3点、引き分け1点、負け0点。
(リーグ1位の勝ち点と同じの場合は、
得失点差>総得点>総失点>直接対決勝敗>フリップで決定)
- ・試合時間は3分30秒前後半(ハーフタイム1分)。
- ・試合ディスクは、270ミカサモデル。試合人数は1チーム10名。
- ・2023年3月に改訂した日本ドッジビー協会公式ルールで実施。
- ・特別ルール：
コート両サイドに設置した、各チーム荷物スペースのラインをディスクが完全に
超えた場合は、5秒ルール違反扱いとする。
- ・帯同審判制：各チームから審判員を1名以上選出し、副審1試合、線審3試合を担当。

3. 出場チームと参加人数

チーム	人数
KKDC	11
M.D.C ウィル	14
チャレンジファイトーズ	12
ドリーム☆ファイトーズ	11
ドリーム☆ファイトーズnext	11
若葉S	15
若葉Z	11
上ノ原ユネサス	16
深大寺アブレイズ	12
北ノ台ダンデライオン	19
合計	132

4. 対戦結果

Aリーグ

Aリーグ	KKDC		MDC		D☆F		若葉S		上野原		勝点 合計	得失点	総得点	総失点	順位
KKDC			A-1 17-5	3	A-6 13-11	3	A-9 18-0	3	A-3 13-9	3	12	36	61	25	1
M.D.C ウィル	A-1 5-17	0			A-4 6-17	0	A-7 15-9	3	A-10 7-14	0	3	-24	33	57	4
ドリーム☆ファイターズ	A-6 11-13	0	A-4 17-6	3			A-2 18-1	3	A-8 13-7	3	9	32	59	27	2
若葉S	A-9 0-18	0	A-7 9-15	0	A-2 1-18	0			A-5 9-14	0	0	-46	19	65	5
上ノ原ユネサス	A-3 9-13	0	A-10 14-7	3	A-8 7-13	0	A-5 14-9	3			6	2	44	42	3

Bリーグ

Bリーグ	CF		D☆F-n		若葉Z		深大寺		北ノ台		勝点 合計	得失点	総得点	総失点	順位
チャレンジファイターズ			B-1 14-11	3	B-6 15-6	3	B-9 14-5	3	B-3 16-0	3	12	37	59	22	1
ドリーム☆ファイターズnext	B-1 11-14	0			B-4 14-12	3	B-7 6-15	0	B-10 13-11	3	6	-8	44	52	3
若葉Z	B-6 6-15	0	B-4 12-14	0			B-2 11-12	0	B-8 9-12	0	0	-15	38	53	5
深大寺アブレイズ	B-9 5-14	0	B-7 15-6	3	B-2 12-11	3			B-5 13-7	3	9	7	45	38	2
北ノ台ダンデライオン	B-3 0-16	0	B-10 11-13	0	B-8 12-9	0	B-5 7-13	3			3	-21	30	51	4

決勝戦

Aリーグ 一位	点数					Bリーグ 一位
KKDC	12	7	前半	5	11	チャレンジファイターズ
		5	後半	6		

5. 表彰



優勝：KKDC

副賞として、株式会社ミカサ様よりドッジビー公式ゲームディスク 270 2枚が贈呈されました。

また、参加賞として、文化シヤッター株式会社様よりミニフリップディスクが配られました。



6. 大会講評

6月28日に開催した「ディスクドッジ 東京シリーズ2026」にご参加いただいた選手の皆さま、引率者・保護者の皆さま、大会運営にご協力いただいた審判・スタッフの皆さま、ありがとうございました。

大会前日は台風が関東を通過し、当日の天候が心配されました。雨や厳しい暑さも懸念されましたが、幸いにも曇り空となり、気温も大きく上がらず、この時期の大会としては比較的恵まれたコンディションの中で開催することができました。



今大会は募集枠6チームに対して10チームからお申し込みをいただき、多くの皆さまに関心を寄せていただいたことを大変うれしく思います。できる限り多くのチームに参加していただきたいという思いから、大会時間を延長し、全10チームが出場できるよう大会形式を調整しました。各チームが4試合を戦えるようスケジュールを組み直した結果、1試合あたり12分という非常にタイトな進行となりましたが、各チームの皆さまのご理解とご協力のおかげで、大きな遅延もなく無事に大会を終えることができました。改めて感謝申し上げます。



また今大会では、各チームから帯同審判を派遣していただきました。3月大会では線審を中心に協力いただきましたが、今回は副審も担当いただく形に挑戦しました。普段の練習や交流試合などで審判経験を積まれている方も多く、想定以上にスムーズな運営につながりました。副審を経験していただくことで、



「みんなで試合をつくり上げる」という意識の醸成にもつながったと感じています。一方で、各チームの負担が増えたことも事実です。今後も参加者の皆さまのご意見を伺いながら、より良い運営方法を模索していきたいと考えています。



競技面では、5チームずつの2リーグによる予選リーグを実施し、各リーグ1位同士による決勝戦を行いました。決勝戦は、Aリーグ1位のKKDCとBリーグ1位のチャレンジファイターズの対戦となりました。前半はKKDCが2点をリードして折り返し、後半はチャレンジファイターズが粘りを見せて1点を取り返す展開となりました。最後まで勝敗の分からない大接戦の末、12対11でKKDCが勝利し、見事優勝を果たしました。両チームの熱戦は、会場を大いに盛り上げる素晴らしい決勝戦となりました。



一方で、大会運営においてはいくつかの課題も残りました。

一つ目は、帯同審判のシフト運用についてです。兄弟チームが同時に参加している場合、一方のチームの選手がもう一方のチームの帯同審判を兼ねるケースがあります。主催者側の配慮が十分ではなかったため、結果として自身が選手登録しているチームの副審を担当する事案が発生しました。試合の公正性に問題はありませんでしたが、不要な憶測や疑念を招く可能性があることを真摯に受け止めています。今後はシフト作成時の確認を徹底するとともに、必要に応じて協会スタッフが副審を代行するなど、より適切な運営に努めてまいります。

二つ目は、成人チームと子どもチームが対戦する際の言動への配慮についてです。大人にとっては何気ない一言であっても、子どもにとっては威圧的に感じられる場合があります。発言者にその意図がなかったとしても、相手の受け取り方によっては不安や恐怖を与えてしまうことがあります。私たちは、相手が大人であっても子どもであっても、お互いを尊重しながら試合をつくり上げることが大切だと考えています。今後もリスペクトの精神を大切に、誰もが安心して競技に取り組める環境づくりを進めていきたいと思います。

これからも、選手の皆さまをはじめ、引率者・保護者の皆さま、そして大会を支えてくださるスタッフの皆さまとともに、より良い大会づくりに取り組んでまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

7. 大会ハイライト&スタッフ講評動画

以下、Youtubeにアップしています。ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/Jc6tFDVxuBI>



以上